

安政南海地震（1854）による土佐国の死者分布

Distribution of casualties of the 1854 Ansei Nankai Earthquake in Kochi Prefecture

都司 嘉宣^{1*}, 松岡 祐也²

Yoshinobu Tsuji^{1*}, Yuuya Matsuoka²

¹東京大学地震研究所, ²東北大学災害制御研究センター

¹Earthq. Res. Inst., Univ. Tokyo, ²Disaster Control Res. Center, Tohoku U.

安政南海地震(嘉永七年十一月五日、1854-XII-24)による土佐国の死者総数は、藩主・山内豊信によって、集計され、地震津波発生から50日が経過した十二月二十六日に幕府に公式に提出された。それによると、土佐国全体での死者数は372人と記されている。この報告書には、「行方不明者」が別個の数字とはされていないので、行方不明者もこの死者数に合算されているものと考えられる。この数字は、地震発生から十分な時間が経過していることからほぼ最終の被害統計数字と考えられる。すなわち、この数字に洩れた死者はほぼないと考えられるのである。

いっぽう、「三災録」(武者、1951のp175)、「徳永達助記録」(「新収日本地震史料第5巻別巻5-2」のp2138)、「温故筆剩」(同p2083)などの史料には土佐国七郡と高知城下の地域別死者数が載せられている。「温故筆剩」に従うと、死者、行方不明者の合計数字は、安芸郡19人、香美郡20人、長岡郡3人、土佐郡10人、吾川郡5人、高岡郡96人、城下159人(死者106人、行方不明53人)である。「温故筆剩」では幡多郡の数字が欠けているが、前の二文献に「幡多郡の死者60人」とあるので、これに従うと、これら七郡と城下の死者・行方不明者を合計すると、ぴったり372人となって、上述の数字に一致する。すなわち、郡別、および高知城下死者数がこれでほぼ確定したことになる(図左)。

いっぽう、「三災録」はじめ各種の古記録から、土佐国の各集落での死者数を断片的に知ることができる。そこで例えば幡多郡を見ると、鈴で2人、入野で5人、中村で29人、愛宕町で1人、下田で数人(かりに5人とする)、清水で1人、古満目で3人、宿毛(近郷を含め)で12,3人(12人とする)であることが信頼するに足る各種の文献によって知ることができる。この数字を合計すると58人となって、幡多郡の合計数60人に極めて近い数字が現れる。「数人を5人と見なした」と「12,3人を12人と見なした」ことを考慮すれば、幡多郡の死者はこれでほぼ尽くされていることになろう。すなわち、これ以外の場所では死者はほぼないと考えられるのである。同様に安芸郡の死者数は19人であるが、現在の安芸市の中心市街地である旧・松田島村で17人の死者があった(「大變記」、上述「新収」p2187)ので、安芸郡の他の場所では、死者はわずか2名しかいなかったことになる。左図には、各郡別死者数と、各郡内の死者の生じた集落、そこで死者数を記しておいた。香美郡は20人の死者のうち夜須、赤岡、久枝で12人の死者を生じており、どこで出た死者か不明なのは8人だけである。長岡郡、土佐郡、吾川郡の死者はどこで

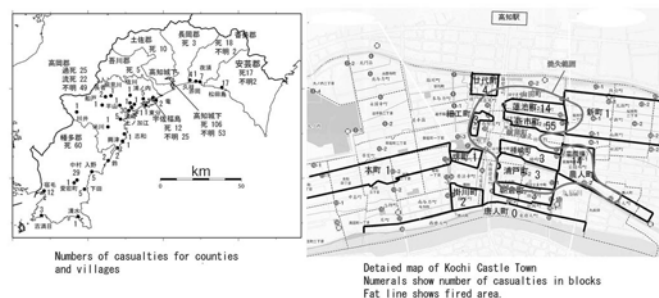


Figure Distribution of casualties due to the 1854 Ansei Nankai Earthquake in Kochi prefecture

たかは不明である。高岡郡の死者の発生地点もほぼ解明し尽くされたと言っていいであろう。

内陸の山間部の集落で比較的多くの死者を生じたのは高岡郡のみであることに注目したい。アスペリティーの大きな部分がこの郡の近くにあったことを示唆するようである。

図右は高知城下の町別死者数である。高知城下23町の内15町で被害が出ており、106人の死者を生じた。注目すべきことに、その過半数の55人が新市町（現在はりまや町2丁目）だけに集中して生じていることである。北に隣接する蓮池町で14人、南東に隣接する農人町で14人の死者を生じているが、この3町だけで83人（78%）の死者が出ていることになる。この死者の異常な集中発生は注目すべきであろう。

キーワード:安政南海地震,地震死者,歴史地震,高知県

Keywords: the 1854 Ansei Nankai Earthquake, casualties due to an earthquake, historical earthquake, Kochi Prefecture